

家畜保健衛生所情報

令和7年10月15日

牛飼養農家の皆様へ



アルボウイルス感染症や
ランピースキン病に注意しましょう

アルボウイルスとは？

- アルボウイルスは蚊や又力カ等の吸血昆虫を介して感染が広がるウイルスです。吸血昆虫の行動が活発化する夏から秋にかけて流行し、熱性疾患や異常産などを引き起こします。
- 牛に感染症を起こすアルボウイルスには、アカバネウイルス、アイノウイルス、チュウザンウイルス、イバラキウイルス、牛流行熱ウイルスなどがあります。
- 予防には吸血昆虫対策やワクチン接種が有効です。

吸血昆虫対策

- 吸血昆虫が発生しにくい環境づくりに努めましょう。
例) 畜舎周辺の草刈り、不要な水たまりを減らすなど
- 出入り口に防虫ネットやトラップ(粘着シートなど)を設置し、牛舎への侵入を防止しましょう。

ワクチン接種

吸血昆虫の活動が活発になる夏前にワクチン接種を済ませましょう。
単味ワクチン、3種混合ワクチン、4種混合ワクチンがあります。
詳しくは家畜保健衛生所までお問い合わせください。

ランピースキン病について

令和6年に福岡県と熊本県でランピースキン病の発生が国内で初めて確認されました。

別紙を参考に、毎日の健康観察や吸血昆虫対策の徹底をお願いします。
疑わしい症状を発見した場合は、ただちに家畜保健衛生所までご連絡ください。